

...ボランティアがつくるニュースレター...

トラストネットワーク

作成…トラスト通信ボランティア
発行…(一財)世田谷トラストまちづくり

〒155-0031
世田谷区北沢2-8-18 北沢タウンホール7階
Tel・03(6407)3311 Fax・03(6407)3319
<http://www.setagayatm.or.jp/>



No. 73 2016年9月

ビジターセンター夏のイベント

「世田谷トラストまちづくり・ビジターセンター(成城4-29-1)」は野川沿いの野川緑地広場の中に建てられています。ここは、みどりの維持・保全などに関するボランティア団体の拠点で、会議室や資料等の利用ばかりでなく、ボランティア団体がビジターセンター職員や専門家のアドバイスを受けるなど幅広く利用されています。



ビジターセンター展示室

夏のイベント

ビジターセンターでは、子どもたちのために、この夏のイベントとして下記の催しを開いていました。

①みどりの上映会(毎週土曜日午前10:00~12:00 午後1:00~3:00)

8月20日は、アニメーション「動物かんきょう会議」(絶めつ種を救え、夢みるエコハウス、宇宙より愛をこめて、超マイカー宣言、夢占い、笛吹き男)が上映され、大雨にもかかわらず、10人ほどの親子が鑑賞しました。

73号の目次

ビジターセンター夏のイベント	1
せたがや散歩道	3
親子でつくる寄せ植えケット玉	7
かわらばん	8

②季節の展示「夏の生きものハカセになろう」展(7月下旬~9月下旬)

ビジターセンターの建物に入っすぐの広い部屋の壁に「生きものハカセになろう」と書かれた大きなパネルが張られ、パネルには昆虫などの写真が貼ってあります。その一画に「生きものクイズ」がありました。クイズは昆虫などに関するものが25問。

「ダンゴ虫は、虫の仲間か?」(答; エビやカニの仲間)、「アリは体重の何倍の重さを運べるか?」(答 体重の5倍)など、私達でも、「ハテ、なんだったけ」と考え込むような楽しいクイズで、当日も、親子連れが互いに答えを出しあっていました。

そのほか、「生きものパズル」(昆虫や小鳥の写真をはめこむもの)、「子ども向けの図書コーナー」、「虫ぼん」(小鳥の写真と生態説明の本)、

「生きものぬりえ」「ふくわらい」(眉毛、目、鼻、口が植物の葉でつくられたもの)、「とりぼん」(世田谷で見ることが出来る野鳥の魅力をわかりやすく紹介した本)など、子供達の勉強及び遊び場の提供と、幼児を安全に遊ばせる場所もあり、若い母親の息抜きの場でもあります。

「季節の展示」としてカブトムシ、カマキリ、バッタの昆虫と、野川で採れたフナ、タモロコ、オイカワなどの魚も展示されています。これらの魚は展示が終わると野川へ返されるそうです。

③草花アートをたのしもう

(7月16日 開催)

広場で見つけた花びらや葉っぱでオリジナルのアート作品を作ろう！

大人の方や夏休みの宿題にもおすすめです。

④なつやすみ 原っぱの昆虫探し

(8月20日 雨のため中止)

⑤夏休み自由研究お助け隊

(8月20日 開催) (詳細下記)

⑥虫はかせといこう 秋の昆虫さがし

(9月17日 開催)「秋の広場にいるトンボやバッタを、虫はかせと一緒に探してみよう。」

夏休み自由研究お助け隊

(生きものなんでも相談室)



お助け隊の先生たちに相談

8月20日(土)、午後1時～3時30分、当日子どもたちから相談を受ける先生は、生物担当が3人、工作等担当が1人、計4人という構成でした。

午前中の大雨も、午後には良い具合に止みました。相談室のテーブルにセミの抜け殻を山のように積んだためか、最初はセミに関する質問が集中していました。時間がたつにつれ、シュロの葉の工作(ほとんどがカタツムリ作り)と竹細工(竹ぼっくりの作成)に参加者が集中しました。

相談者の中には、自分が捕ったエビ、ハゼ、モクズガニ、サワガニ、カエル、ザリガニの写真を提示しながら、その魚等の名前、住んでいる場所、種類、産卵場所、オス・メスの見分け方等を質問し、熱心にメモを取る子供の姿も見受けられました。講師の先生は、アメリカザリガニと日本ザリガニを写真だけで区別するのは難しい場合もあるので、取った場所と季節などを記録しておくことが大事だと教えていました。

2時20分からは、会議室でパソコンを用いた映写で、「さあ、生きものをしらべよう」の解説があり、20人ほどの親子が参加しバッタやセミの見分け方、捕まえ方などの話を聞きました。



時間がたつにつれ参加者が増え、シュロの葉工作や竹細工の方は4時を過ぎてもまだ、工作に熱中している親子の姿が見られました。

せたがや 散歩道

都市計画道路補助154号線を訪ねて

～駒沢公園通りと周辺～

先72号では154号線の世田谷通りまでの区間を紹介しました。今号ではその続きとして世田谷通りから南の区間の終点、等々力三丁目までを紹介します。



駒沢公園通り北端右は世田谷通り

特長 現在この区間の道路は「駒沢公園通り」と名付けられています。1964年の東京オリンピック開催時に建設された「駒沢オリンピック公園」の通称「駒沢公園」に因んで命名されたようです。またこの道路も同じ時期に建設されています。

先号での説明と同様に、この道路は世田谷区の南北を結ぶ重要な地区幹線道路の役割を担っています。特に区内の東西を結ぶ多くの幹線道路と交差し、自動車通行量が多く、路線バスも多くの路線を南北から東西方向へと広がっています。

このような状況では、この道路は散歩道としてよりも、沿線の名所史跡を訪ねるための移動手段に利用されると思われます。従って沿線の名所史跡の紹介を中心にして、沿線の北から南へと説明を進めていきます。

世田谷通り付近

最初に交差する通りはボロ市通りです。代官屋敷前より世田谷中央病院までの区間に、江戸時代から有名



ボロ市通り

なボロ市が年2回開催されます。現代風の表現ではリサイクル品のフリーマーケットの大型版といえるでしょう。

常在寺 次に交差するのが駒留通り。三軒茶屋方面へと繋がっています。交差点の先の道を、西側へ進むと近くに常在寺があります。



案内灯



常在寺本堂

身延山久遠寺の末寺で日蓮宗の寺院です。忠善院日純聖人が開山後に永正3年(1506)、世田谷城主吉良頼康の側室常盤御前が開基しました。



墓地苑の五重塔

さぎ草物語で有名な悲劇の主です。

常在寺の門前にいぼとり地蔵尊があります。

近隣の女性の願いで寛延時代(1751)に建立されたと伝えられています。



いぼとり地蔵尊

いぼが出来た時、地蔵の前の小石を借りて病んでいる所を撫でると不思議にいぼが取れるそうです。全快したら借りた小石を倍にして、置けばよいと伝えられています。

向天神橋公園

弦巻通りと交差する地点の本道路に面した地点に小さな公園があります。西洋庭園風の噴水が見られます。



公園の噴水

向天神(“向”は旧地名)という神社があったそうですが、明治末の神社統合で、近くの弦巻神社に合祀されたようで、現在は名前だけが残されています。天神橋の橋は蛇崩川に架けられていたとのこと。

次のバス停、駒沢3丁目から東側に二区画離れた所に世田谷美術館分館の「向井潤吉アトリエ館」(弦巻2-5)があります。数多くの向井画伯の作品が誕生したアトリエと住宅を美術館に改装し、代表作の数々が展示され大勢の参観客でにぎわっています。

駒澤大学駒澤キャンパス、駒沢公園

首都高速3号線(高架)と国道246号線(玉川通り)との交差点が「駒沢」と名付けられています。この交差点の南東側にキャンパスがあります。



最寄バス停は駒沢公園西口。名前の通りに駒沢公園の西口があり、公園内の数々の競技場や体育館は現在も使われています。1964年のオリンピックが偲ばれます。2020年のオリンピックではどのように活用されるのでしょうか。さらに南へ進むと駒澤大学深沢キャン

パスが本道路に面しています。

駒沢通り 恵比寿方面から二子玉川まで世田谷南部を東西に結んでいる重要な道路です。江戸時代から使われていた歴史的にも由緒ある道筋です。



駒沢通りとの交差点

駒沢公園通りとの交差点の西側にあるのが深沢不動で、その隣に医王寺があります。この交差点とバス停の名称はいずれも同じ「深沢不動前」です。



広い境内の奥に一階建てのコンクリート造りの建物があり、その屋上に立派な本堂と本堂参拝のための階段が一階の正面から設けられています。

明治時代、深沢村で千葉県成田山新勝寺の不動明王を信仰する成田山信仰の機運が高まり、村内に成田山の本尊を模した不動明王を祀ったお堂を建て、成田山へ行かずにそこへ参詣したいとの声に、村人が協力して医王寺の境内仏堂として深沢不動堂が建立されました。

成田山信仰は木製の



医王寺本堂 右壁面に寺名

身代わり札が有名で、当時の軍人たちに人気があり、身体につけるお守り札としていました。

医王寺は真言宗智山派の寺院、成田山新勝寺と同じ宗派となります。

深沢不動の現在の本堂は平成8年に完成。医王寺は昭和20年(1945)に本堂等が戦災により焼失しました。その後昭和38年(1963)に再建されたのです。医王寺に近接し日本体育大学東京・世田谷キャンパスがあります。

深沢不動の交差点より約100m南から駒沢公園通りは東側に分かれて、そのまま直線状に進み、等々力3丁目で目黒通りと合流し終点到達します。

目黒通り近辺 等々力7丁目には「う。えきば市民緑地」8丁目には**東京都市大学等々力キャンパス**があります。

駒沢公園通りの終点近くにある**玉川神社**は明治末の統合で周辺の神社を合祀して、熊野神社から**玉川神社**へと改称しています。さらにすぐ隣の**致航山満願寺**は真言宗智山派の寺院で、この地域の等々力不動や医王寺と同一宗派で本院の立場にあるそうです。



満願寺本堂

一方の西側は比較的住宅の密集した道路となりますが、等々力操車所発着のバス路線となっています。**都立園芸高校**、さらに郵便局、消防署、警察署などが隣接した重要道路として東急線等々力駅へと続いています。

路線バス 現在駒沢公園通りを利用する路線バスを下表に示します。いずれも営業区間の一部を走行して、東西方向の主要道路へ移動しています。

系統	営業区間
等 11	等々力操車所－祖師谷大蔵駅
区間	(深沢不動前－世田谷駅前)
渋 82	等々力操車所－渋谷駅
区間	(深沢不動前－駒沢)
自 12	自由が丘駅－駒大深沢キャンパス
区間	(深沢不動前－駒大深沢キャンパス)

[注] 昨年154号線が全線開通した時期に、等々力－梅ヶ丘のバス路線運行実験を行ったそうです。早期開通を期待します。
街路樹 駒沢公園通りは全体に緑豊かな木々が植えられています。特にイチヨウの街路樹は秋の景観に彩をつけてくれます。将来が楽しみです。



2016・フラワーランド園芸講習会 親子でつくる寄せ植えケト玉

7月25日(月)午後2時から、フラワーランドの樺の大木に囲まれた芝生広場において「親子でつくる寄せ植えケト玉」講習会が開催されました。

予め申し込んであった親子24組、51名が参加しました。夏休みが始まったばかりのウイークデーとあって、参加者は、小学校の低学年から幼稚園児とその母親という組み合わせでした。

当日は、曇り空で風もなく、屋外での講習会にはもってこいの日和でしたが、公園内には草木や池もあるため、蚊の対策には神経を使いました。

会場には、作り付けの大きなテーブルが5つと長椅子がありました。椅子が足りなくて、教室からも会場に運び込み、受講者は、来園順に着席するように処理していましたが、受講者数が多かったため、作業が始まると窮屈だったようで、芝生の上で植え込み作業を行う組も出たようです。



最初に、(一財)世田谷トラストまちづくりの担当者の挨拶があり、続いて、フラワーランド友の会の講師から植え込み作業上の諸注意と、テーブル上に並べられた植え込み用の材料(ケト玉、植え込み用の草花、コケ、アミ、糸、

肥料など)の確認を求められました。今回の植え込み用の草花は、大人用には「斑入り唐辛子とトクサ」、子供用には「コバノランタナ(花の色は黄色。宿根草)とトクサ」が用意され、それ以外に希望者にはミセバヤ、ササ、セキショウ、リュウノヒゲ、マサキも提供されました。次に、ケト玉の用土の説明(ケト土8割、赤玉土2割)と、「用土は1週間前に準備をしていたので乾燥して硬くなっています。皆さんに用土をもみほぐして柔らかくしていただくのですが、手袋を用意していない方にはラップを差し上げます」と言ったとたん講師のところに大きな行列ができました。そして、多くの参加者がラップで用土を包んで、しばしの間、叩いたり、延ばしたり、楽しそうに泥遊びに興じました。泥遊びは素手の方が楽しいですよというアドバイスは、ちょっと無理。



次は、握り拳二つ分よりやや大きいケト玉を二つに割り、半分をアミの上に薄く延ばし、真ん中に水抜きの穴を開け、肥料などをばらまいた後、いよいよ草花の盛り付け。講師から「草花をポットから抜いて、土を落としてください。草花には細かい根が沢山ついておりますが、春先の場合は細かい根を沢山切り離しても、根が伸びてくるので

すが、今からだ根が伸びてきません。なるだけ、細い根を切らないようお願いします」と、説明されたのですが、これが苦労の原因。

ケト土の上に草花を3種類又は5種類選んで、前後、左右のバランスを考慮しながら並べ、残りのケト土で根を固定させるのですが、まず、草花選びに一苦労。当然、華やかな斑入り唐辛子を中心に、細長いトクサを後ろに植えるのですが、前面又は横に植えるミセバヤなどの草花の組み合わせが難しいようでした。



そして、最大の難事は、ケト土でこれら草花の根全体を包み込むこと。講師からの注意で、斑入り唐辛子の根を切らなかったため、根の部分が大きすぎて、根を包み込んだケト土で壁が薄くなった上、植物の根には粘着力がないので、ケト土がばらばらに。子供達はケト土を貰い、つぎ足したりして、悪戦苦闘。友の会の会員の手助け等を得ながら、なんとか、形を整えたようです。

そして、通常なら、アミについている針金を草花の根元のところで結ぶのですが、ちょっと難し過ぎるので、土の塊の中に針金を突き刺して固定。

次の苔張りも幼い子供達には難業。友の会の会員も呼び声の大きいところに集まりすぎたり、大変だったようです。普段、土で遊ぶという機会がない

ためか、手の汚れも気にせず皆さん楽しそうに、そして、真剣そのもので、途中で投げ出す子は一人もいませんでした。ただ、作業の途中で手を洗いにくく子も多かったようです。作業は、根を固定したケト土の上を苔で覆い、糸で苔を固定して作業終了。

最後に、自宅に作品を持ち帰った後



の注意事項を聞いて、解散。

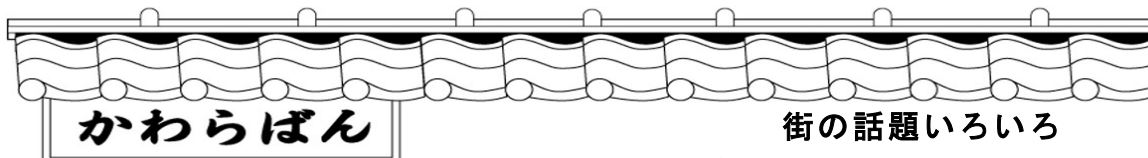
子供達は、自分の作品を大事そうに抱え、満足そうな顔で帰途につきました。

感想としては、まず、今回の講習

会は友の会の「山野草・桜草班」が応援したのですが、夏は寄せ植えに適した山野草が少ないので、思い切って、観葉植物（クロトン、蔦など、フラワーランド内



で簡単に挿し木などで増やせる植物)と花の色が鮮やかで花期の長い千日紅(昨年、千日紅等の寄せ植えをした鉢を出窓に置いたところ、今年の春先まで咲いていました)を組み合わせたりするのも一方法かなと思いました。また、母子を対象にする講習会の場合には、ケト土を使わずに、花の色が美しい千日紅、ニチニチソウ、マリーゴールドなどの草花の寄せ植え講習会を行うのもよいのではないかと思いました。苔を使う作業は難しいようです。



トラスネットワーク紙
No. 72を読んで

・新しいタイプの「小さな森」

成城学園前駅ビル「成城コルティ」の4階に「雑木林の丘」と「オリーブの庭」が2015年度に「小さな森」に登録されました。写真とともに様子が分かり、ぜひ利用したいものです。

「小さな森」は14カ所にもなり、それぞれの由来が知りたいですね。

・フラワーランド春の花まつり-2016

5月7,8日に天候に恵まれ、多くの企画が盛況のように伺われます。スタッフの方々の下準備のよさがあったことでしょう。

毎回楽しみにされている方々も多く、ガーデニングの素晴らしさが伝わり、花と緑のきれいな街になることを願います。

・せたがや散歩道

今までの古い道ではなく新しい道をたどる散歩でした。周辺には公園、学校とともに緑道や花々の美しい所があり、散歩したくなるコースでした。

近所の松陰神社、景観のまちづくりのひとつ、電柱のないすっきりとした道なみは空が広く見えます。新しい道も面白い散歩のひとつですね。

・野川せせらぎ教室～春!草花と遊ぼう～

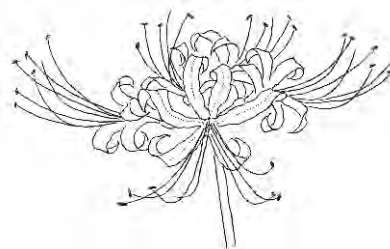
住んでいる所にどんな草花があり、どんな様子なのか多くの子どもたちに知ってもらおうよい機会だと思います。大変手間のかかる活動ですが、継続されることは大切だと思います。

街の話題いろいろ

カナブン 7月、毎日のように我が家の猫は2階のベランダでカナブンを捕まえました。ところがお盆の頃それがぴたりと無くなり、調べてみると、成虫の活動期間はひと夏のみ1ヵ月程度とのこと。猫が飽きたのでは無いと知りました。(カナブンは逃がしてあげましたのでご心配なく)

ピーターラビット展 東京都渋谷区美術館でピーターラビット展を開催中です。作者のポターは、このお話の収入を湖水地方の自然保護の為に使い、遺言により英国ナショナル・トラストに寄付された土地は、美しい景観で今も人々を魅了し続けています。私達も身近な自然をいとおしみ、残していけるよう切に願います。

ヒガンバナ(別名マンジュシャゲ)



有毒性の多年草で
秋のお彼岸の頃に開花します

編集後記 台風10号は東北、北海道地方に大きな被害を与えました。被害を受けた方々にお見舞い申し上げます。

異常気象災害の原因を地球温暖化に結びつけ、二酸化炭素増が問題となり、さらに原発とのつながりを話題にしがちです。しかし本当にそうでしょうか。多くの疑点が感じられます。

73号作成に関わったメンバー

大泉定雄 片寄正史 北島明子 須永澄子
高梨麻実 田澤與光 野武一郎 宮下正雄